

■今月の特選句

2012年8月号

健康食金持ちならば麦を食え

伊藤浩睦

「貧乏人は麦を食え」と昔、池田勇人大蔵大臣。
ところが、麦は今では健康食となり、地位は高くなりました。「金持しか食えなくなった麦の飯」。

省エネのひとつの形糸とんぼ

稲沢進一

昆虫のダイエット大会では優勝間違いなし。軽量だからランニングコストが低くてすむ。進一の句を盗作して、「昆虫に学ぶ省エネ糸とんぼ」。

節電に汗だく駄句の句会かな

川島智子

「汗だく」の「だく」を「駄句」とかけたところがいい。この際、「抱く」も使えませんか。「汗だくで作りし駄句を抱く句会」。

左手に聖書右手に蠅叩き

百千草

「左手に聖書右手に剣」からヒント。免罪符として聖書を使ってきた人類への文明批評。私も作ろう。「左手に金融で儲ける本右手に歳時記」。

水着は見せるものパンツははくもの

松尾軍治

水着は泳ぐためのものではない。泳ぐには水泳着を着用する。ちなみにパンツはズボンのこと。ここで一句。「見せたいは水着にあらず●●●」。

○型の血を吸ひ蛭の丸く落つ

田中早苗

蛭(ひる)は、O型でなくても丸くなるが、何となく説得力がありますね。「A型の血を吸い尖る蛭もあり」か。「B型の血を吸いマイペースな蛭」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

じゃんけんにかけて蛍の名は平家
 ・・・勝てば源氏になれるでもなし
 西をさむ

人食うて楊枝啜へし生身魂
 ・・・次の餌食を笑みつ待たれる
 永島董玉

土煙りあおるドジョウの尾のうちわ
 ・・・河の中でも省エネブーム
 栗倉健二

天然の鮎に凄まれ箸鈍る
 ・・・歯ぎしりをするゴマメも苦手
 有富洋二

風の盆草書体にて揺る手足
 ・・・句に仕立てむと俳人悩む
 青山桂一

電波の日そつなき筈の話漏れ
 ・・・その日のうちに地球をめぐる
 麻生やよひ

神主が斜めに歩む大暑かな
 ・・・木沓片べりしていたらしく
 飯塚ひろし

毛虫焼くこれ以上なき身拵へ
 ・・・毛虫も棘の衣装をまとひ
 越前春生

涌くやはや交る葉先の梅雨の蝶
 ・・・子孫を残すために生れしか
 加藤 賢

片陰に入れば自滅の影法師
 ・・・甦生をするは陰を出るとき
 高橋素子

金蠅やをりをり牛の尾が見舞ふ
・・・頃はかり次の一撃

原田 暉

スカイツリー見むと亀の子塔を成す
・・・いちばん上が首を伸ばして

ひがし愛

つばくrame後をけがして巢を去れり
・・・後濁さずは単なる願望

酒井鹿洋

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|--------------------|-------|
| | 蛍の夜老いらくの恋検索中 | 青木輝子 |
| | 世の隅で鳴かず飛ばずの大昼寝 | 青木輝子 |
| 【佳作】 | 羽抜け鳥一世風靡の影もなし | 青木輝子 |
| 【佳作】 | 夜を徹し金釘文字の阿波踊 | 青山桂一 |
| | ガス抜きに力貸したり市の踊 | 青山桂一 |
| | 夏至の森こ蔭の野草踏むまじく | 秋月裕子 |
| | 花びら垂れわが肌垂れてあやめ勝ち | 秋月裕子 |
| 【佳作】 | 梅雨霪の船の汽笛に目覚めけり | 秋月裕子 |
| 【佳作】 | 節電にかこつけ手抜き冷奴 | 麻生やよひ |
| | スマホてふ所詮よそ事蝸牛 | 麻生やよひ |
| 【佳作】 | 男でも女でもない赤のまま | 足立淑子 |
| | 初嵐五年たったら逢いましょう | 足立淑子 |
| | 事もなげに梅酒ガブガブ飲む女 | 足立淑子 |
| | 炎天や猫も杓子も出歩かぬ | 有富洋二 |
| 【佳作】 | 朝顔や目覚め良ければ水をやる | 有富洋二 |
| 【佳作】 | 西郷の犬も舌出す暑さかな | 有吉堅二 |
| | 蹴飛ばしてまた引き寄せる夏蒲団 | 有吉堅二 |
| | 昼寝猫髭の長さをもてあまし | 有吉堅二 |
| 【佳作】 | 滝の水魚も一緒に落ちるらん | 栗倉健二 |
| | アイスだけ食う子に母の二人腹 | 栗倉健二 |
| | 晩学のピアノの音も湿る梅雨 | 安藤淑子 |
| 【佳作】 | 初夏の陣喧嘩と和睦の老夫婦 | 安藤淑子 |
| | 水無月や使ひ果たした乗車券 | 安藤淑子 |
| 【佳作】 | 白き脚見てはいかづち墜落す | 飯塚ひろし |
| | とりたてて奥義はなけり胡瓜もみ | 飯塚ひろし |
| | サマーバーゲン手に収めれば下がり目に | 井口夏子 |
| 【佳作】 | 出来不出来ちょっと小粋な茄子もあり | 井口夏子 |
| | 叩かれてシートに落つる梅あまた | 井口夏子 |

- 【佳作】 風雨荒れ無駄な抵抗傘踊り
人語に飽き犬声猫語の老いのどか
池田亮二
池田亮二
- 【佳作】 シンプルイズベストと称し冷奴
油照何のかんのと口実に
石川節子
石川節子
- 金太郎飛び出さうな西瓜切る
蛍見やひとりに人の恋しくて
板倉肱泉
板倉肱泉
板倉肱泉
- 【佳作】 扇風機スイッチ一つで首を振り
扇風機スイッチ一つで首を振り
板倉肱泉
板倉肱泉
板倉肱泉
- 政党の壊れし余熱残暑かな
高階の鮎屋で待ちし初秋刀魚
伊地知寛
伊地知寛
伊地知寛
- 【佳作】 夏の霧吹き散らされて屁の河童
隠し芸は葎簀の南京玉すだれ
伊藤浩睦
伊藤浩睦
伊藤浩睦
- 他人事のやうに蛙鳴きにけり
【佳作】 銀杏のちよつと飛んで焼かれある
稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一
- 青虫や皿のレタスの上歩く
【佳作】 梅雨の日やパソコン感ずうるう砂
井野ひろみ
井野ひろみ
井野ひろみ
- ベランダに傘ひるがへり梅雨晴間
白百合の激しく匂ふ玄関に
今城夏枝
今城夏枝
今城夏枝
- 【佳作】 凌霄の花さかりなり癌病棟
凌霄の花さかりなり癌病棟
今城夏枝
今城夏枝
今城夏枝
- 昨今は通年化する五月病
脳天の黴いかにせんこの年で
入江澄泉
入江澄泉
入江澄泉
- 【佳作】 中華街餃子のような初夏の雲
中華街餃子のような初夏の雲
入江澄泉
入江澄泉
入江澄泉
- サングラス外し垂れ目の現るる
【佳作】 茅の輪くぐるカメラがないか確かめて
虫干や永代使用の優待券
宇井偉郎
宇井偉郎
宇井偉郎
宇井偉郎
- 砂底を泳ぐ影あり吾のもの
富士登山昔は駅より第一歩
宇佐美徹郎
宇佐美徹郎
宇佐美徹郎
- 【佳作】 炊事場は何れもカレーキャンプ場
炊事場は何れもカレーキャンプ場
宇佐美徹郎
宇佐美徹郎
宇佐美徹郎
- ほろ酔ひに酔って候酔芙蓉
天の川釣り竿持つは父ならん
氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一
- 【佳作】 終戦や菊の御紋の銃を捨つ
終戦や菊の御紋の銃を捨つ
氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一

- 【佳作】 狼藉の孫憎からぬ金魚玉
言訳をのたまふ勿れ羽拔鶏
越前春生
越前春生
- 梅雨さむやもひとつ摘む花林糖
【佳作】 水蛸をやつと噛み切る半夏生
くちなしの香に戸惑いて露地の奥
奥脇弘久
奥脇弘久
奥脇弘久
- 梅漬くる甘目甘目の塩加減
微動だにせず白昼の蛾の交尾
【佳作】 ぞんざいに叩く思案の古扇
笠 政人
笠 政人
笠 政人
- 夏みかん抱えし幼児転びそう
友の家訪ふ紫陽花に案内され
【佳作】 梅雨雷雨神の粒子にすがりたし
加藤澄子
加藤澄子
加藤澄子
- 【佳作】 堰越えてきて水濁る菖蒲園
枝払ひしてより楠の曇りがち
加藤 賢
加藤 賢
- 夏場所連敗横綱四苦八苦
豆の苗拔けばにつつき根切り虫
【佳作】 筍は糠風呂浴びて食わるるや
門屋 定
門屋 定
門屋 定
- 片蔭より人溢れ出す青信号
草いきれ抜け来し子らの大吐息
【佳作】 油虫にはかに夜の活気づく
金澤 健
金澤 健
金澤 健
- 【佳作】 人間は毛虫を憎み蝶愛づる
紫陽花や女子会の輪の盛り上がる
川島智子
川島智子
- 【佳作】 浴衣から二の腕太腿突き出して
大太鼓小太鼓響き毛虫舞ふ
葉脈は武士の情け毛虫去る
久我正明
久我正明
久我正明
- 【佳作】 薔薇咲かずモデルハウスにくつろぎぬ
花しょうぶ翼を持ちて戦へり
一等陸佐指揮の楽団夏の星
工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子
- 【佳作】 サクランボ七や九でなくハチ欲しい
サクランボ挽ぐ時腰は良く伸びる
黒田忠一
黒田忠一
- 【佳作】 ここもかと破れ網戸の絆創膏
小杉 隆

	絶倫は竹夫人と抱き枕 息合せ風鈴鳴らす父子かな	小杉 隆 小杉 隆
【佳作】	夢だつたかなんてにたりと昼寝覚 くはだてのにはほふ男のオーデコロン 夕風や枕に言はすYES・NO	小林英昭 小林英昭 小林英昭
【佳作】	田高く海外へ行く大企業 むかしのことみな知っている物忘れ 大事だと仕舞いこんでるただのゴミ	齋藤八兵衛 齋藤八兵衛 齋藤八兵衛
【佳作】	若者や季節閑せず更衣 源平のうらみいまだに蛍戦	酒井鹿洋 酒井鹿洋
【佳作】	本町の本田本屋の本の紙魚 厄介な恥部に頑固の汗疹かな 草庵へをさな走らす水喧嘩	佐藤古城 佐藤古城 佐藤古城
【佳作】	なめくじりキャベツ芯まで忍び入る 台風にもめげず残りし恋蛍 父の日は過ぎ七月も期限切	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】	夏バテや詐欺にあふたと戸を開ける 兵は行く御用繁多の弦召党 夏土俵綱取り競争六力士	柴田真一 柴田真一 柴田真一
【佳作】	木石と云はれし父の墓洗ふ 我が武骨父の反骨牛蛙 ここだけの話広がるちんちろりん	清水吞舟 清水吞舟 清水吞舟
【佳作】	舟虫の一と二と三とちりぢりに 御隠居のやうな犬棲む夏館 金魚玉類句ばかりが泳ぎたる	下嶋四万歩 下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】	児が笑ひ立てば天才夏座敷 昼暗くゴーヤカーテン点灯す 隠す鍵燕の親子観てをりぬ	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	三分もあれば十分髪洗ふ 父さんは大根役者水鉄砲 少子化の波ごきぶりに及びけり	白井道義 白井道義 白井道義

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| | 梅雨かき分けとらふとらふと消えてゆく
普通の暮らしてどくだみ吊してある | 鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 【佳作】 | どくだみの匂いはオスプレイ拒否 | |
| 【佳作】 | 田んぼでは夜も休まず蛙鳴く
梅雨入りし散歩にカッパを犬うれし
信号機日傘をさして待っています | 鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也 |
| | 精進すお山の顔や半夏生
茶漬でも長居は無用夏座敷 | 高田敏男
高田敏男
高田敏男 |
| 【佳作】 | 下心有りし浜辺のサングラス | |
| | 紫陽花のこぼれ落ちたる雨の道
黒南風の一撃傘の裏返る
暗闇に溶け入り壁の揚羽蝶 | 高橋マキコ
高橋マキコ
高橋マキコ |
| 【佳作】 | 黒南風の一撃傘の裏返る
暗闇に溶け入り壁の揚羽蝶 | |
| | 学食はグラム一円氷水
しとやかに縦横無尽になめくじら | 高橋 都
高橋 都
高橋 都 |
| 【佳作】 | 古書に生れ古書に死したる紙魚なりき | |
| | 短気にあらむ大夕立の雲は | 高橋素子
高橋素子 |
| 【佳作】 | 夏台風に軟禁されておりにけり | |
| | 炎帝の尾髀骨の目醒めるめり
頭頂にクンダリニーの蓮の花 | 田中 勇
田中 勇
田中 勇 |
| 【佳作】 | 蓮の花変幻自在の色なる | |
| 【佳作】 | 桑の実や舌出し嘘を見破られ
梅雨寒や笛吹きケトル鳴き放す | 田中早苗
田中早苗 |
| | すててこも女が穿けば街着かな
雷鳴に婆のしゃっくり止りけり | 田村米生
田村米生
田村米生 |
| 【佳作】 | 鼻をみて亭主とわかるサングラス | |
| 【佳作】 | 貴婦人もラッパ吹くのか百合の花
荒梅雨やオレオレ詐欺の口達者
名知らぬ草ぼうぼうの草いきれ | 蔦恵
蔦恵
蔦恵 |
| 【佳作】 | 父の日の孫と来し子をもてなせり
4Lにイエローカードこぼれ梅
志ん生をまた聞く卯の花くたしかな | 飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝 |

- | | |
|--|-------------------------|
| かなかなの亡骸になく法師蟬
【佳作】 流燈の一燈宙を流れみて | 永島董玉
永島董玉 |
| 蛇衣を脱ぐうっとり両眼
【佳作】 ごきぶりの我が家の暮し不憫がる | 西をさむ
西をさむ |
| 【佳作】 謎解のごとく真顔に解く粽
金輪際株は買ふまじ百日紅 | 原田 曄
原田 曄 |
| イケメンの唾へ煙草や霾(つちふ)れり
【佳作】 金魚売り店主と呼ばれおまけせり | ひがし愛
ひがし愛 |
| 舌染めるあの赤が好きかき氷
出会い系そこで出会いし金魚かな
【佳作】 省エネや暑さに強い昭和人 | 彦阪義久
彦阪義久
彦阪義久 |
| 冷房の貝類館に閉ち籠る
【佳作】 噴水の仕掛けてありぬ城の壕
七夕や年に一度のメール友 | 久松久子
久松久子
久松久子 |
| 手のひらに乗せてながめてさくらんぼ
教室に四角く入れる青葉風
【佳作】 ピーマンの隠し事無き生き方よ | 日根野聖子
日根野聖子
日根野聖子 |
| 秒を急き秒を休らふあめんぼう
【佳作】 夏シャツや小さき乳房をありのまま
干涸びて蚯蚓は土の匂ひかな | 広瀬雅幸
広瀬雅幸
広瀬雅幸 |
| 【佳作】 玻璃牢に高値幽雅の熱帯魚
ビルの窓開き夏至の日食つてゐる
北方へ視界めまひやハンモック | 藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 自らは長すぎないと思ふ蛇
ぺろぺろとくるくとあり蛇の舌
晴れ男やにはに蛇とにらめつこ | 藤森荘吉
藤森荘吉
藤森荘吉 |
| ヴァンゴッホのごと車窓の麦畑
卵の花のかすかに匂ふ雨上がり
【佳作】 あれも欲しいこれも欲しいと夜店かな | 藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子 |
| 【佳作】 言ふまいぞと孫にも食はすかき氷
先生が追ひつけぬ子のあるプール | 前 九疑
前 九疑 |

	サングラス外して挨拶されにけり	前 九疑
【佳作】	キャッチャーもたまには汗かくデイゲーム 潮引いて芥の如きの海月かな	松尾軍治 松尾軍治
	素跣寄せ足湯で芽生ふ淡き恋	丸山紘一
【佳作】	早乙女の頃もありしか媪鋤く 木下闇魑魅魍魎の動めけり	丸山紘一 丸山紘一
【佳作】	終着の見えぬ人生サングラス 紫陽花も俯き加減人の波 箱入りの枇杷の高値に目をそらす	三塚不二 三塚不二 三塚不二
	朝もやの大利根川に薯洗う	三橋百笑
【佳作】	新そば啜る心なし音高く 芳しきクロバーに散らかるシニア野球	三橋百笑 三橋百笑 三橋百笑
	夜濯ぎや明日着る物をしぼりたり	宮森 輝
【佳作】	座りよきネーブル選りて墓に置く 重信公墓前にサルビア盛りなり	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
	はみ出して来れど隣の枇杷なりし 風の道作るも仕事風鈴屋	村上美和 村上美和
【佳作】	誘蛾灯音する度に召されけり	村上美和
	麦こがし寄るとさはると兄弟	百千草
【佳作】	そこいらのものにいどんで羽拔軍鶏	百千草
	蜘蛛の子や子供はみんな天才だ 雨粒の雨雨雨を綴る梅雨	森岡香代子 森岡香代子
【佳作】	ナビに無し老舗旅館の朴の花	森岡香代子
	北海道梅雨がないとはつゆ知らず 老輩やたまにたまたま戻りつゆ	森 要 森 要
【佳作】	赤い靴はいて横浜梅雨明ける	森 要
	片蔭に怠惰の人となりいたる 案の定持ち重りしてデカメロン	八木 健 八木 健
【佳作】	糸瓜垂れさがる疲れたとも言へず	八木 健
	仰々子「お黙りなさい」是非もなし 冷房車二周しにけり小旅行	八洲忙閑 八洲忙閑

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 水打ちて盛り塩したるラブホテル | 八洲忙閑 |
| 【佳作】 | 脚鳴らし裾はだけたる神の滝
大気圏行き戻りして半仙戯
白扇の内にあくびを殺しけり | 柳 紅生
柳 紅生
柳 紅生 |
| 【佳作】 | 愛猫のトマトの中のかくれんぼ
ぐったりと萎れしアヤメ吾が姿
夏料理術後の夫は屁の河童 | 柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子 |
| 【佳作】 | 内弁慶虫退治して株上り
ごきかぶり招かれざるは人の方
潮の香や帆船初夏と寄港して | 山下正純
山下正純
山下正純 |
| 【佳作】 | 全員が優等生よさくらんぼ
節水の気の緩むなり梅雨しとど
休業の貼り紙田植の研修の | 山本けい子
山本けい子
山本けい子 |
| 【佳作】 | 大きさは指を輪にして夏薊
婆のまじない紫陽花の逆さ吊り
天道虫名画の中に迷ひ込み | 山本 賜
山本 賜
山本 賜 |
| 【佳作】 | 黴匂ふ家に戻りてくつろげる
盆僧は白バイ従へ突っ走る
マネキンとて目をそらしをり素っ裸 | 横山喜三郎
横山喜三郎
横山喜三郎 |
| 【佳作】 | 活気づく蛙の声や豪雨来て
荒梅雨に脱原発の声湿り
七夕笹平穏祈るケアホーム | 渡辺さだを
渡辺さだを
渡辺さだを |